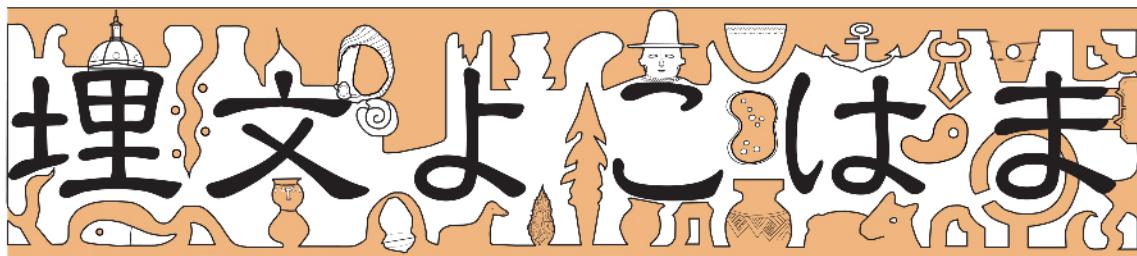




Archaeological research institution of Yokohama



てらおじょう
寺尾城の堀跡を発見

ちゅうせいじょうかく —横浜の中世城郭—

33



寺尾城跡遺跡にみられる空堀

寺尾城址は、JR鶴見駅の西約2キロほどに位置する鶴見区馬場3丁目になります。入江川によって作られた標高35メートルほどの舌状台地にある中世の城跡です。ぜつじょうだいち 1993年、2010年、そして2015年とこれまで3回の調査が行われ、空堀や土壘が見つかっています。からぼり どるい 殿山公園の一角にかかる空堀は、上面の幅約5m、深さは3mを超え、堀底の幅は約1mの逆台形をしています。また、殿山公園の南側からも、舌状台地を東西に分断する形で深さ約1mの逆台形をした空堀とその東側にL字状に幅4~5m、高さ60cmほどの土壘があります。

城にとって堀は防備線です。堀を掘って積み上げた障壁が土壘になります。この堀のラインを決めることが非常に重要です。寺尾城の堀にみられるような逆台形の堀が、中世・戦国期を通して一番多い堀の形です。角度のある壘壁面をもち、堀底を狭い平場にすることで、敵を堀底で一度食い止め、かつ内側の土壘から攻撃を加えることが可能です。

寺尾 城 図



鶴見寺尾地域に、戦国時代に諏訪氏という武将が拠点を構えていたことが『北条氏所領役帳』『新編武蔵風土記稿』などに記されています。しかし、諏訪氏については史料も乏しく、詳しいことはわかつていません。『新編武蔵風土記稿』には、信濃国(長野県)出身の武士・諏訪三河守の城が馬場村にあると伝わっていることや、鶴見村に諏訪牛之助の屋敷跡があつたことが記されます。諏訪氏菩提寺である建功寺には寺尾城の城主といわれている諏訪氏四代の名が記された靈簿が伝わっています。また、江戸期に成立した『小田原北条記』には2人の諏訪右馬助の名が記されています。

建功寺靈簿では、寺尾城落城の時期を天正3(1575)年であることを伝えており、『寺尾城百話』では、寺尾城の構築は永享年間(1430-1440)、落城は永禄12(1569)年の武田信玄の小田原攻めの際と検討を加えています。

寺尾城は台地上に位置し、東側は馬場谷、西側は池谷、南側は入江川およびキガクボと低湿地に三方を囲まれた天然の要塞です。城を築くには、内から守り易く、外から攻めにくいような地形を選ぶことが第一です。

攻めにくく守り易い要害の地に築かれる城と異なり、館は城主・土豪の生活の場として、平場につくられることが多いです。平時には館で生活し、戦時には城に立てこもることが多いですが、城の中にも生活の場を持つ城郭もみられます。また館も、平時の生活の場といえども、堀や土塁で囲まれています。

⑤諏訪牛之丞館

殿山から東北に約1.5kmの同丘陵上にある。『新編武蔵風土記稿』には「諏訪馬之助居住ありし所」と記されている。諏訪氏は平素はここに居住し、戦時のみ寺尾城にこもったのではないかとの推測もある。



⑥土塁一部保存「文化財保存地」

⑦殿山公園にみられる空堀

⑧発掘調査によって一部確認された空堀

⑨発掘調査によって確認された土塁と空堀

⑩瀬戸灰釉刻文壺

(上図:神奈川県立歴史博物館蔵、写真提供)
(左図:個人蔵、神奈川県立歴史博物館写真提供)

中世城郭 位置図

構が確認されている城郭

横浜市内には、都筑区茅ヶ崎城址をはじめ、港北区の小机城址、緑区の榎下城址、栄区の長尾城など保存状態の良好な中世城郭がいくつか残されています。



図中の番号はP7.8の表の番号と対応します

郭伝承地(遺構未確認)

臺本城(施羅山城址上山望む)

梅耶山城(夷士城址 メイエ)



東木城(施設小城村上川町大)

埃及小城(吉士城)上(朝土)

※時田城は本格的な発掘調査は行われていないが、グランド整備の際の小規模発掘で戦国時代の火鉢片が1点出土している。

西子ヶ谷城(頂上の主郭上にわざと標記)

豆豆城(はなから城)



西子ヶ谷城(頂上の主郭上にわざと標記)

豆豆城(はなから城)



三十九

— 1 —

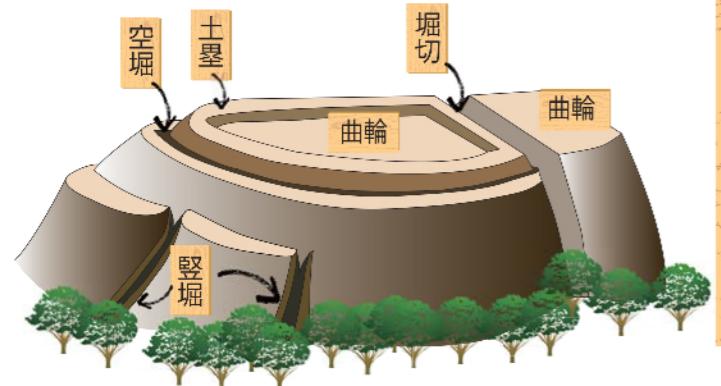
卷二十一

— 100 —

築城

中世の城郭は、一般的にイメージされるような壮大な天守閣や石垣を持つ近世の城郭と違い、木と土で築かれた城です。

築城目的に叶った土地を選び、防御、攻撃の施設を建設します。築城工事の中でその8割から9割が普請とよばれる石垣や掘割りなどの土木工事でした。なかでも、堀は城にとって大きな防衛の区画ラインでした。堀をどこに作るかによって「縄張」が決定しました。



土橋…堀を横断する通路として設けられる土の堤。出入りのための通路を細い土手として残したもの。



西曲輪の土橋断面

縄張…築城場所を選定後、堀の位置を決め、曲輪等の配置をすること。
堀切…外敵の侵入防止や遅延のために、曲輪や繋ぎの部分を人工的に開削して溝(堀)にするもの。尾根や丘陵を断ち切った感じの空堀。

切岸…岩山などの堅い地盤を削り、急斜面にするもの。

馬出…虎口外側に小さな一郭を築き、虎口の防御力を強化したもの。

縦堀…山の斜面に直角(等高線に直角)につくった空堀。

根古屋…城主の館や家臣団を麓に置いたもの。

丘城…丘陵部の上部平面のみを利用した城をいい、丘陵城郭の略称。

関東地方の中世の城の典型的なもの。



横浜市内の中世城郭

横浜市内の中世城郭は、丘陵や台地の地形を巧みに利用した丘城と呼ばれるもので、14世紀末から16世紀に後半にかけて築造されたと考えられています。現在、横浜市内では遺構が確認されている中世城郭は6件あります。また時田城からは中世城郭の普請工事等の遺構は見つかっていませんが、戦国時代の火鉢片が1点出土しています。

市内の中世城郭では、空堀や土塁を中心とした遺構が見つかっています。空堀は傾斜角が30°~40°の緩やかなものから、茅ヶ崎城にみられるようなほぼ垂直にあがる急傾斜のものまでみられますが、60°~70°のものが多いようです。空堀底面部は平坦で、後北条氏の築城に特徴的といわれる障子堀などの堀底に障壁がみられるものはみつかりません。また、これまでみつかっている土塁は板をわたした内側に土質の異なった土砂を突き固める版築土塁などはみられず、堀を掘った土砂を積み上げる搔き上げ土塁です。

遺構が確認されている城郭

※時田城を除く

番号	名称 (ふりがな)	別称	所在地	種類	遺構						城の形式	築城者 (築城後)	築城理由	築城年代	
					空堀 / 土塁	上面幅 (m)	底面幅 (m)	深さ/ 厚さ (m)	傾斜角 (°)	形状					
1	寺尾城 (てらおじょう)		鶴見区 馬場 (殿山公園 ほか)	空堀・土塁	空堀	2.5~5	1~1.5	1~3	55~75	逆台形	丘城	諏訪三河守(信濃の豪族諏訪一族の支流)	?小机城の領地内。江戸衆としていたが、1573年に相模・南武藏を支配した扇谷上杉との関連も視野。	15C	
2	篠原城 (しのはらじょう)	金子城、 金子出雲守 土塁	港北区 篠原町	空堀・通路状遺構、 土坑・平場	空堀	8	1.5	5	50~60	逆台形	丘城	金子出雲守	後北条の支城である小机城の支城。	15C後半~16C代。初現は後北条の普請ではなく、土豪の在地領主によるものか。15Cに相模・南武藏を支配した扇谷上杉との関連も視野。	
3	小机城 (こづくえじょう)	飯田城、 根古屋城	港北区 小机 (小机城址 市民の森)		曲輪・土塁・空堀・土橋など ※確実な発掘調査未								山内上杉氏か(後北条・西郭の遺構は後北条のものか)	築城の年代は明らかではないが、付近が開けた12C頃とみられている。実際に小机城の名が出るのは長尾景春の乱のとき。	
4	茅ヶ崎城 (ちがさきじょう)		都筑区 茅ヶ崎町 (茅ヶ崎城址公園)	土塁・空堀・柱穴跡・地業面・平場・土橋・溝状遺構・道路状遺構・堀・ピット・井戸	空堀	4~13	1~8	2~6	30~ ほぼ90	逆台形	丘城	上杉憲清(後北条)	15C後半には最大規模に構築され扇谷上杉氏の中継地點(16C中葉から後半には小田原北条氏に利用された可能性も)	14C末から15C前半に成立。15C(第1期)…西・中・東・腰曲輪、第2期…現行範囲)神奈川湊と武蔵府中を結ぶ往還の押さえ。第1期の初現は14Cまで遡る可能性有。第2期の終末は16C前半まで及んでいた可能性。	
5	横下城 (よのしたじょう)	久保城	緑区 三保町 (舊城寺)		空堀2条	空堀	8~9		3	30~50				鎌倉道(中ノ道)における要害。	
6	蒔田城 (まいたじょう)	吉良氏館	南区 蒔田町 (横浜英和女学院)								丘城	吉良左兵衛佐頼康	交通の要所か。	室町時代	
7	長尾城 (ながおじょう)	長尾台の 城、長尾砦	栄区 長尾台町	地業面(切岸と土塁を兼ね合わせたような性格を持つ)							丘城	長尾氏(後北条)	鎌倉時代に長尾氏の居館・砦があり、室町時代に南方に位置する後北条氏の玉縄城の防衛のための支城(現存遺構は後者)。	16C	

引用・参考文献

- (編)大木衛・小笠原清・田代道彌 1980 『日本城郭体系 第6巻』「千葉・神奈川」 新人物往来社
坂本 彰 2005 『鶴見川流域の考古学—最古の縄文土器やなぞの中世城館にいどむ』 百水社
下山治久 2012 『横浜の戦国武将たち』 有隣新書
西ヶ谷恭弘 1991 『戦国の城一目で見る築城と戦略の全貌 上巻 関東編』 学研
西ヶ谷恭弘 1993 『戦国の城一目で見る築城と戦略の全貌 総説編』 学研
西松総生・松岡進・田島貴久美 2015 『神奈川中世城郭図鑑』
持丸輔夫 1977 『寺尾城百話』
雄山閣 1980 『新篇武蔵風土記稿 二』 卷之六十七 橋樹郡十
横浜市歴史博物館 2011 『平成22年度企画展図録 都筑区茅ヶ崎城跡と謎のウズマキかわらけ』

城郭伝承地一覧表(遺構未確認)

番号	名称	ふりがな	別称	区	住所	城/館の形式	築城者	築城理由	築城年代
1	潮田館	うしおだやかた		鶴見区	汐入町	平地構	潮田光行か		
2	獅子ヶ谷城	ししがやじょう	獅子ヶ谷殿山	鶴見区	獅子ヶ谷町	丘城	小田切氏		慶長年間(1596-1615)
3	諏訪牛之丞館	すわうまのじょうやかた	諏訪馬之助館 諏訪家屋敷	鶴見区	諏訪坂	台地構	諏訪牛之丞か		
4	龜之甲山陣城	かめのこやまじんじろ		港北区	新羽町	丘城	太田道灌	太田道灌が小机城を攻略する際に陣を敷いた場所。	15C後半
5	矢上城	やがみじょう	中田加賀守館	港北区	日吉	丘城	中田加賀守か	後北条の武威進出の中での、矢上川北方や網島街道への眺望か。	
6	桃井権磨守館	ももいはりまのかみやかた		港北区	高田町	丘城	桃井直常か		
7	土井谷砦	どいやとりで		港北区	小机町	丘城		小机城の最も弱い方向と思われる南東の防備か。	
8	大豆戸城	まめどじょう		港北区	大豆戸町	丘城	小幡泰久か		
9	佐江戸城	さえどじょう		都筑区	佐江戸町	丘城	猿渡内匠助か	交通の要所。 小机城の支城。	
10	川和城	かわわじょう	川和城山、 川和城壁	都筑区	川和町	丘城			
11	恩田城	おんだじょう	恩田堀の内	青葉区	あかね台	丘城			
12	荏田城	えだじょう		青葉区	荏田町	丘城		交通の要所。 小机城の支城。	16C(1495-1590)
13	青木城	あおきじょう		神奈川区	高島台	丘城	上田蔵人	港湾(神奈川港)、海岸沿いの街道の押さえとして。	16C
14	権現山城	ごんげんやまじょう		神奈川区	幸ヶ谷	丘城	上田蔵人	権現山の戦いの後、青木城の一郭として組み込まれたか。	16C
15	太田道灌屋敷	おおたどうかんやかた		南区	太田町	台地構	太田道灌		室町時代
16	今井城	いまいじょう	今井砦	保土ヶ谷区	今井町	丘城	今井四郎義平	砦の西麓には鎌倉道が通っており、その押さえまたは監視の役割か。	
17	中田加賀守屋敷	なかだかがのかみやしき		保土ヶ谷区	東川島町	平地構	中田加賀守・ 中田藤左衛門		
18	笹下城	ささげじょう	間宮豈前守陣屋、 間宮氏笹下本城	磯子区	洋子台	谷津構築と丘城の複合城郭	間宮信光		室町時代末
19	間宮氏杉田陣屋	まみやしすぎたじんや		磯子区	杉田町	平地構	間宮左衛門尉信常	安房側の兵船の攻撃を迎撃したための陣屋が恒久化か、杉田港防衛のための前進拠点。	
20	間宮氏永取沢陣屋	まみやひとりざわじんや		磯子区	永取沢	平地構	間宮綱信		桃山時代
21	間宮氏森居館	まみやもしもりきょかん		磯子区	森町	谷津構	間宮康俊	安房里美氏の鎌倉侵攻に起因する沿岸防備対策のひとつか。	
22	玄蕃屋敷	げんばやしき		磯子区	滝頭・丸山	谷津構	玄蕃氏		16C前半か
23	平子氏館	たいらこしやかた	磯子城、 平子平右馬允屋敷	磯子区	磯子町・久木町	丘城	平子氏か	宝生寺を押さえこと。海上交通の要である杉田浦の確保。	16C前半か
24	笹山砦	ささやまとりで		港南区	上永谷	丘城		伝えの城の役目を果たしたものか。	
25	松本城	まつもとじょう		港南区	港南	丘城	間宮信元	笹下城の支城。 笹下丞の北方の備え。	室町時代末期
26	野場閑城	のばせきじょう		港南区	野場	台地構	和田義盛	国境の要所。玉緒城と笹下城の中間に位置し、繋ぎまたは伝えの城の役目。	鎌倉時代初期か
27	嵐山六郎重保居館	はたけやまろくろうしげやす		戸塚区	汲沢町	台地構	嵐山六郎重保		
28	飯田五郎家義館	いいだごろういえよしやかた	藤塚城	泉区	下飯田町	台地構	飯田五郎家義	交通の要所(鎌倉街道上の道傍)。	
29	石巻下野守康敬陣屋	いのまきしもつけのかみやすたかじんや	玄蕃城、 玄蕃新翌	泉区	中田町	台地構	石巻康敬		
30	泉小次郎親衛館	いずみこじろううちかひらやかた	中和田城	泉区	和泉町	台地構	泉小次郎親衛	交通の要所(鎌倉街道上の道傍)。	
31	岡津城	おかづじょう		泉区	岡津	丘城	上杉朝良	交通の要所。	
32	青ヶ台城	あおがだいじょう	青ヶ城、金沢城、 青ヶ台城山	金沢区	釜利谷町	台地構	金沢右馬助	金沢貞頼・貞将の居館。	鎌倉時代か
33	伊丹屋敷	いたみやしき		金沢区	釜利谷町	谷津構	伊丹右衛門太夫		室町時代末期

「日本城郭大系」第6巻に依っています。場所比定地が不確定なものなどは省略しています。

《埋蔵文化財センターのご案内》

JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行き
または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き
終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9~17時となっています (受付16時まで)。
- ・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

埋文よこはま33

発行日 2016年3月22日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551